

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 9 月 11 日									
法人名	セントケア西日本株式会社									
代表者(理事長)名	代表取締役 岡田修一									
介護保険事業所番号	2	7	9	3	1	0	0	0	2	1
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護									
事業所名称	セントケアホームいくえ									
事業所所在地	大阪府大阪市旭区生江2-11-15									
記入担当者職・氏名	(職) 計画作成担当者 (氏名) 船越 浩二郎									
連絡先電話番号	06-6927-1060									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業員と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	近隣の方が時々こられ、グループホームの入居の 仕方や内容（金銭的な物等）を聞きにこられるこ とがあります。また運営推進会議の折には地域の 代表の方と相互に協力していくことなどをお話さ せて頂きます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	フロアーの飾りや玄関のレイアウトについて工夫 を凝らし、また無機質ではない部屋作りをめざ し、ご家族様にもご協力いただいております。し かしながら十分ではない点も有る為、今後も徐々 に改善していくように努めてまいります。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議にて出た意見要望については、実現 できるものにつきましては、改善の取り組み内容 を次の会議にて回答させていただいております。 また実現出来ない事につきましては理由を説明 し、回答させていただいております。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	包括支援センターの方には、運営推進会議に出席 していただいていることから、当ホーム内にて対 応困難な問題については相談できるようお願いし ております。また区役所の担当者とは、業務事故 があった際には報告させていただく中で、転倒の 問題、死亡にいたった際の対応など参考意見を頂 いております。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び計画作成担当者は権利擁護について の研修を受けており、またそれについて必要な場 合は関係機関に連絡できるように準備をしていま す。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	管理者及びスタッフは勉強会の中で高齢者虐待に ついての研修を受け、事例を通じ気づいたこと、 感じたことなどを話し合う機会を持っておりま す。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在頻繁な管理者やスタッフの移動については、馴染みのスタッフとの関係を重視するホームとしての考えがあり、頻繁には行っておりません。しかし退職など必要が生じた場合には、十分な説明を行なうよう努めております。また新しいスタッフが入社した場合は、研修期間を十分にとり、コミュニケーション重視の研修を行ないます。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の勉強会を定期的で開催し、適時その内容についてケアに生かされているかを評価します。また、必要と思われる外部研修については、スタッフに周知し、希望者には参加の手続きをします。またスタッフのステップアップのための研修には、人選し参加を促します。(避難誘導研修・ターミナルケア研修、認知症実践者研修等)</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワークに参加し他のグループホーム関係者との交流する機会を持ち、また学習会に参加しております。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不定期ですが、飲み会を開催。またスタッフと就労後にコミュニケーションをとりながら、精神的、身体的負担のかかり具合を見ております。2ヶ月に1回映画鑑賞券を配布し余暇の充実を図っております。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護業務だけではなく、ユニットリーダーとしての業務、モニタリング、行事などグループホームを運営するにあたり必要不可欠な仕事を任せることにより、責任感と向上心を持ちながら仕事を遂行していけるよう努めております。また、様々な年齢層のスタッフが仕事をしておりますので、各自の考え方等はなしやすい環境となるようにしております。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に御家族様との面談を行ない本人様の現在の状態をまず把握いたします。その後入居された本人様とコミュニケーションをとる中で、また会話の中で実際に困っていること、不安に思っていることをお聞きするように努めております。特に可能な方は夜間に十分にお話をお聞きできる場合が多いです。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御家族様面談、本人様面談、契約時などにおいて本人様の状況だけではなく、御家族様の状況、在宅生活で困っていたこと等をお聞きした上で、入居者様が入居された後どのような生活をして欲しいと考えているかをお聞きいたします。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームへの入居が最善と思えない場合については、地域のケアマネージャーへ再度相談されるよう助言させていただいたり、他のサービスの紹介説明をさせていただくこともございます。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>必要な場合は、体験入居も可能であり、徐々にグループホームに馴染めるような支援の方法があります。また入居当初は、本人様の不安も考慮に入れ、可能な限り御家族様に面会に来ていただくようお願いしております。実際御家族には可能な限り面会に来ていただくようにしており、本人様の安心につながっていると思います。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理の盛り付けが上手に出来たとき、洗濯物が上手にたためたときなど、共に喜び、またレクリエーションを通じスタッフ、入居者様ともに楽しみます。また人生の先輩の方との生活を通し、人への気配り、優しさを学び、時には頑張り励ましていただく機会も多くございます。また家事のこつについて教えていただくこともございました。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	在宅時では、出来ないと思われていたレクリエーション、家事等他の入居者様に誘われてされている姿をみても、共に驚き、喜びます。また当グループホームは、入居者様、御家族様、スタッフが協力して作り上げ、入居者様の生活を支えていくことが大切である事を入居時、見学時にお話させていただきます。また散歩・外食・外泊等御家族様に行って頂くようにお伝えし、現在の本人様の状態を直接感じていただき、ご家族様より助言や要望をお聞きすることで本人様を支えていくための協力を頂いております。またレクリエーションや散歩にもご協力いただくこともございます。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会にこられた方に対しては、全員にお茶をお出しし、気軽にお話できる関係作りを大切にしております。またフロアや居室でお話して頂き、お茶やお菓子をおだしすることで、閉塞感や緊張感が無いように配慮しております。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、御家族を含め、ご友人に来ていただくことに制限は設けておりません。また面会にこられたご友人に対しましては、また機会を作って面会に来ていただきたいことをお伝えいたします。外出につきましても、家を含め思い出の場所にお連れ頂くことに制限を設けず、可能な範囲で外泊（実家、アメリカ旅行）し馴染みの方とお会いされたり、思い出として残る場所にお連れ頂いております。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居期間が短い方にはスタッフが他の方と早く馴染めるようにゲーム大会、レクリエーションを他の方と一緒に頂くなど配慮いたします。また一人一人個別に家事をお願いするのではなく、みんなで頂くことで、互いの助け合う気持ちが出てきており、励ましあったりされる場面も多く見受けられます。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅サービスが必要な方には、在宅ケアマネジャーとの連携を行い、本人様、御家族様の負担が軽減できるよう助言していくよう契約書に記載しております。実際には退去し在宅生活に戻られた方はおられません。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人様の発言、行動を観察する事で、お気持ちや希望を察することがよくあります。確実に希望されていることについては申し送りで伝達、またユニット会議等において可能なものは実現に向けた取り組みをしております。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に「ご入居に際して」を記入いただき、今までの生活に関する内容を把握できるようにしております。また入居後も御家族様からの情報で在宅時のご様子を把握するように努めております。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>T A I 判定・認知症プログラムを用い現在の心身の状態を把握。また申し送りの中で、本人様の1日のご様子状態を把握し、1ヶ月に1回のユニット会議の中で問題となっている点は改善に向かうよう検討しています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>御家族様とは面会時に現在の介護、Drからの報告を行い、今後のケアの方向を共に考え、その内容については申し送り、ユニット会議において情報の共有を図ります。またお客様への毎月の目標を定め、また介護計画については毎月目標の達成状況をモニタリングしております。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(3ヶ月に1回)な見直し及び本人様の状態の大きな変化が見られたときにご家族様と相談するなかで今後のケアの方針を定め、計画を変更させていただきます。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在記録として日常生活経過記録として記入しており、ケアの実践結果を記入しております。気づき、工夫については記録としてはとどめておりませんが、申し送りの中でスタッフに伝達するようにしております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じた通院支援や医療機関の紹介、福祉用具の相談機関の紹介、外出時の介護タクシーの手配などを行っております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練など消防署と協力し行っております。また、去年の夏祭り際には地域のボランティアに協力して頂き、フラダンスを踊っていただいた経過がございます。また地域の餅つき大会では、近隣の方に誘導など協力いただき、豚汁やお茶を振舞っていただき入居様も喜んでいただきました。		今後民生委員等を通じ地域の公民館などへの老人クラブなどイベントへの参加を計画を予定しております。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時の介護タクシーの手配、また出張理容サービスを利用していただいております。また、福祉機器事業者に協力して頂き、身体機能の低下が見られる入居者様には、福祉用具の購入の相談にのっていただいております。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はしておりませんが、包括支援センターとは運営推進会議を通じ必要な支援をお願いしております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在当ホームの連携医療機関からの往診を2週間に1回行なっております。また提携歯科とは無料検診を定期的に行い、治療の必要があるかたのみ治療をお願いしております。在宅時のかかりつけ医が往診可能であればホームにて往診して頂くことも可能であり、産婦人科・耳鼻咽喉科等の診療について、外出が困難な方については往診できる体制を整えております。また、医療連携加算をとっていないため必要時には24時間対応の訪問看護の方に来ていただいております。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの連携医療機関は認知症についても詳しく、症状についての相談、認知症とあわせて併発しやすい疾病についても24時間体制で相談させていただいております。また必要に応じて他の医療機関の紹介をしていただけるなど、誠意のある対応をして頂いております。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの医療連携機関の看護師とは頻りに点滴や注射の支援を受けております。その際医療的な問題や症状について相談しており、必要に応じてDrへ報告していただいております。また在宅時の顔見知りの看護師が診療でこられた際には現在の状態と以前の状態の比較など密な情報を交換させていただいたことがございます。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院を含め、入院先の病院へは担当者が足を運び、医療連携室等に情報の提供や協力をお願いしており、退院前には、入居者様の状態について、確認の連絡をしております。必要時には当ホームの連携医療機関のDrにお申し情報収集を図ります。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアが必要となった場合、かかりつけ医と御家族様、担当者と今後のケアの方針、想定される状態など確認を行い、Drからの指示、御家族様の希望など共通した思いで情報を共有できるよう頻りに連絡をいたします。		
重度化や終末期に向けたチームでの支援	スタッフがケアの中で対応可能なこと不可能なこと、		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療機関に連絡すべき状態、想定できる状態等は医療機関と御家族様と担当者が会議の中で話し合い確認いたします。その内容についてはスタッフに周知し統一した思いでケアが出来るようにしております。(ターミナルケアの方がおられ、訪問看護の方に緊急時の支援をお願いしておりました)</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	認知症にとって環境が変わるリスクについては説 明し、そのリスクを軽減する方法として、馴染み の物を身近に置くことや、当面御家族様の面会を 頻繁にさせていただくようお願いしております。 レクリエーションやスタッフとの会話を通じ楽し い気持ちに早くなれるように配慮いたします。		
いに 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	言葉の虐待には研修を通じ学んでおり、記録の保 管や個人情報については鍵のかかる保管庫に保管 しております。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	常日頃からしたいこと、希望についてはコミュニ ケーションを図る中で聞くようにしております。 また認知症の度合いにより理解できる力も様々な ことから、入居者様の分かるような説明（ゆっく りとお話する、耳元で大きな声でお話する） をするように心がけています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	決まった時間に食事や入眠して頂くのではなく本 人様の希望する生活をして頂くように心がけてい ます。また日中は時間を決めて何かをするのでは なく入居者様と相談しながら、家事やレクリエー ションをお願いしたりしております。時には昼寝 をしたり、ソファで眠られたり、本人様が心地 よく生活できるようにできるだけ強制とならない ようにしております。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
身だしなみやおしゃれの支援	画一的な服装ではなく在宅時に着ておられた普通 の服を普段は着ておられます。自身で更衣が出来		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定期間における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>今後一切の施錠を外し、外出しようとする方がおられれば、スタッフが気づき同行させていただくように支援したいと考えております。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
	<p>災害対策</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p>		<p>食事量、栄養バランスについては当社の管理栄養士が献立を作成しバランスの取れた内容になって</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	<p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
	<p>おります。また体重が増加傾向にある方や体重が重い方には膝への負担などを考慮し、またかかりつけ医の助言も考慮し食事量を調整しております。また水分量についても制限のある方、最低摂取量が定められている方がおられるため、水分チェック表を作成し管理に努めております。また咀嚼が十分できない方には刻み食、嚥下が十分でない場合はトロミ剤を使用しております。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	当社マニュアルに即した対応をしております。また資料を用い必要時にはスタッフに配布説明し対応について徹底しております。現在肝炎(陽性)の方がおられ、出血時の対応などケアの際には十分に注意させていただくと同時に、入居者様や御家族様が違和感を感じることがないように配慮させていただきます。以前ノロウイルスの疑いがあり感染しているのではといった状況がございましたが、かかりつけ医に連絡し検査、治療を行い早期に終息した経緯がありました。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎日ハイターによる洗浄、また食卓テーブル食器類は毎食前後アルコール噴霧により清潔を保ちます。さらに洗浄後の食器は乾燥機にて温熱消毒をさせて頂いております。また食材についても、前日に配達して頂くなど鮮度にこだわっております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの周りには花壇を植えております。また玄関の机には花瓶、当社のパンフレットをおき、またソファを置くことで気軽に立ち寄れるように工夫しております。また身体の障害をお持ちの方に対しても手摺の設置や椅子を置くことで安全に面会が出来るように配慮しております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア-居室についてはカーテンを設置し不快な光をさえぎるように工夫しております。防音については、不快な状況にならないように壁を厚くするなど対処しております。またフローア-にはカレンダーを貼り、テーブルには季節の花をいけ、季節感を取り入れるように工夫しております。冬場には加湿器、年中空気清浄機を使用し、快適な空間作りをしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席はほぼ決まっております。入居者様の場所を作っております。またそれとは別にリクライニングソファ、ソファ2種類を設置し、独りの時間を過ごせたり、他の方と談笑できる場所を確保しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

部屋に閉じこもることが無いようフロアーに多くの方が出てこられ、他の方とお話することやレクリエーション、家事をして頂くことが多いと思います。そのような生活を通じ入居者様同士のコミュニケーションや気遣い、「あの人が洗濯たたんでいるのなら私もする」といった相乗効果も出ております。優しさ、気づき、観察力、入居者様を思いやる気持ちなどをコンセプトとして「同じ目線であきらめない介護」に掲げ、入居者様、御家族様、スタッフが協力してグループホームを作り上げていると実感しております。また毎月モニタリングを行い入居者様の状態の確認を会議で行い、スタッフが目標を定める中で、統一したケアの方向を持てるようにしております。運営推進会議におきましては、近隣の方のご理解が深まったと感じており、家族会を含め、本音でお互いがお話できる雰囲気があります。